



草加八潮地域連携呼吸器研究会(**SYRC-R**:シルク・アール)

事務局：草加八潮医師会

〒340-0018 草加市中央1-5-22
TEL 048-928-8760
FAX 048-924-7180

代表世話人：高木 寛

(高木クリニック)

世話人：加藤 貴紀

(かとうファミリークリニック)

平田 大介

(平田クリニック)

会計兼務 新 謙一

(草加市立病院・東京医科歯科大学臨床准教授)

看護・介護部門世話人

花木 美穂子

(わーくわっく草加)

巢鴨 義夫

(一正堂薬局第二支店)

村瀬 妙子

(訪問看護ステーション氷川)

新 智美

(草加市立病院看護部)

監査兼務 浅古 裕康

(草加市立病院地域医療連携室)

会報著作制作：新 謙一

(草加市立病院・東京医科歯科大学臨床准教授)

シルク・アール：質の高い滑らかな地域連携に！

草加八潮地域連携呼吸器研究会
(英名：**S**oka-**Y**ashio **R**egional **C**onference of **R**espiratory Disease)は頭文字をとりSYRC-Rと表記し、「シルク・アール」と発音します。絹(シルク)の様に質の高い滑らかな連携がある(アール)ことを目指しての語呂合わせのネーミングです。
名前負けしないように継続発展させていきたいと考えています。
皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

草加八潮の周辺地域からのご参加も歓迎致します

本日の折込資料はインターネットでもダウンロードできます。
鳥インフルエンザ流行マップ
http://idsc.nih.go.jp/disease/avian_influenza/index.html
インフルエンザ施設内感染予防の手引き
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/pdf/01d.pdf>

草加市立病院呼吸器科は紹介予約制・木曜は休診

草加市立病院呼吸器専門外来は紹介予約制を原則としています。COPDや肺癌を始め、気管支喘息、肺炎など多彩な疾患を診療しています。事前に当院にある資料を準備し外来前日にカルテを予習して、複雑な管理を要し疾患が進行した患者さんや紹介患者さんへの質の高い診療を心がけています。その為お一人お一人にかなりの時間がかかります。

患者さんには、ご地域の先生(クリニック・診療所など)に先に受診してご相談いただき、必要に応じて地域医療連携室を介してのご予約(事前資料準備の為)をして頂くようにお願いしております。現状では**予約がない場合に診察開始まで3時間以上お待ち**せし

ており患者さんにご迷惑がかかります。

当科受診時は紹介元の先生からの紹介状・レントゲンなどのほかに、患者ご自身がお持ちのお薬手帳や過去の健康診断の結果などもご持参頂けると大変参考になります。

女性医師の出産育児休暇に際して4月から前倒しで要員を強化していましたが、病棟業務増加、内科&検診業務補助の必要から**木曜外来を当分の間休診**させていただきます。急患には個別に対応しますので内科系外来(時間外は救急外来)または地域医療連携室までご連絡下さい(TEL048-946-2200代表)。

健康診査やワクチンなど予防医療は実地医家の先生にて引き続き宜しくお願いします。



外来前日にカルテを「予習」して診察しています

草加八潮地域連携呼吸器研究会 (SYRC-R)

お互いの顔が見える地域連携に

ハイライト：

全国に先駆けた私達の**COPD**地域連携は、

数々の学会発表や雑誌掲載を通して少しずつ

認知されてきている。しかし、早期**COPD**の

重要なリクルート源である草加市肺がん検診

はシステムの変更に伴い例年**18,000**人いた

受診者が今年**10,000**人に減少してしまっ

た。学会が推奨する**IPAG**問診票からのリク

ルートも極めて少ないのも課題であり何らか

の結論を我々が導く必要があり皆さんのご協

力をお願いしたい。

インフルエンザの流行が関西から始まっているが、地域全体で管理を向上させるため今年

も全国データベースを活用した管理を行う。

目次：

部門世話人ごあいさつ **p1**

第18回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会優秀賞受賞 **p1**

第18回日本呼吸ケアリハビリテーション学会報告 **p2**

期間限定：IPAG問診票の勧め **p2**

08/09インフルエンザ特集 **p3**

インフルエンザ流行ネット公開 **p3**

草加市立病院呼吸器科より **p4**

折込
インフルエンザ診療フローチャート
鳥インフルエンザ流行マップ
新型インフルエンザ備蓄リスト
改訂IPAG問診票
COPD地域連携パス：プロフィールシート、実地医家用パス
改訂SYRC-R手帳



須鴨 義夫

一正堂薬局第二支店
草加市薬剤師会理事
SYRC-R部門世話人



薬師寺(奈良)の薬師如来像

昨年このSYRC-Rが立ち上がる事をお聞きした時、耳を疑ったのはすべてのケアマネージャーでは無かったでしょうか。最も連携が取れにくいとされた草加市立病院が連携を取ってくれる。これも世話人の新先生、代表世話人の高木先生のご尽力の賜物と感謝致しております。また、この考え方が他の先生方にも波及していく事を期待させて頂きます。医療という物が単に病気だけを診るのではなく、介護も単に生活だけを見るのではなく、医療と介護が連携する事により病気の早期発見、生活全般の向上につながるのではないのでしょうか。

さて、最近連携という言葉がとても重要視されております。ケアマネージャーの仕事は正しく連携で、すべての職種とのコミュニケーション能力が問われます。この地域がとても素晴らしいと思う事は、このSYRC-Rと共に越谷市を中心に脳卒中地域医療連携の会があり、獨協医大や越谷市立病院等との連携が図られ、草加八潮医師会とも医療と介護連携の会、越谷市医師会とも医療と介護連携の会があります。これほど医療との連携が図られている地域は他では無いのではないのでしょうか。これからも医療、福祉、介護、行政の方々が多数参加してくれるものと期待しております。

第18回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会で優秀賞

草加市立病院外来看護師兼呼吸療法認定士の新智美氏の演題が優秀賞を受賞しました(総数270演題で受賞は6名)。2008年3月現在で、不足が喧伝されている小児科専門医は12,354名、産婦人科専門医は12,025名います。一方、呼吸器専門医は3,580名しかいない現状で、高齢化社会を迎える社会の要請にどう応じるかを考える時、地域連携の構築や学会認定の呼吸療法認定士の役割が重要であり、今回の受賞で学会の後押しを頂いた意義は大変大きいです。



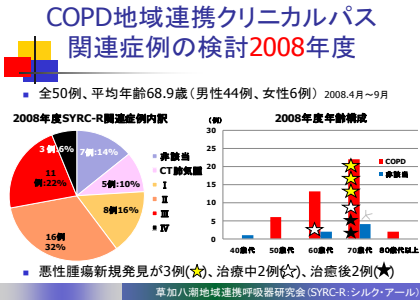
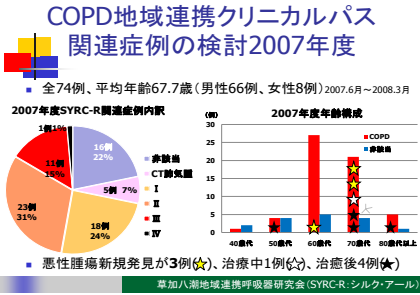
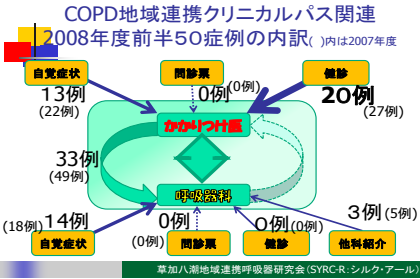
学会に没頭していて受賞に気付かず、翌週突然に表彰状が送付されてきてビックリ！

第18回 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会

The 18th Annual Meeting of Japan Society for Respiratory Care and Rehabilitation



10月24/25日に開催された第18回呼吸ケア・リハビリテーション学会にSYRC-RによるCOPD地域連携クリニカルパス関連演題を2題報告した。



SYRC-R関連症例から毎年高率に新規悪性腫瘍発症

SYRC-R関連症例は昨年度74例、今年度は前半6カ月で50例ありました。例年約18,000名程度が受診する草加市肺がん結核検診が今年度は制度変更で約10,000人に減りましたがリクルート経路別では検診由来が昨年同様最多(20例)でした。昨年より若干高齢者が多くなり、COPD非該当やⅠ期&Ⅱ期の軽い症例が減りました。これは軽症COPDのリクルート源となる検診受診者の減少やCOPD既治療症例もSYRC-R地域連携管理に組み込む今年度の方針を反映した結果と考えます。

また、昨年同様に新規悪性腫瘍発症が3例あり、1年半のSYRC-R関連症例124症例の中で合計6例の新規悪性腫瘍の発症は想定以上に深刻な状況です。この深刻なバリエーションを受け、改定SYRC-R手帳の裏表紙見開きには新たに検診受診歴を確認するページを追加しま

した。1年後の再評価までに「かかりつけ医レベルで可能な限り癌検診を実施」して頂き、異常があれば市立病院での再評価時の紹介状に明記していただき、疑わしい癌の精査をして、少しでも多くの新規発癌をスクリーニングしたいと考えています。

がん検診		直近施行時期	年	年	年	年
肺がん	胸部レントゲン					
	(喀血・胸痛)					
	CT検診					
	胃がん・大腸がん	年頃				
	胃がん	年頃				
消化器がん	胃がん	年頃				
	大腸がん	年頃				
	大腸がん	年頃				
	大腸がん	年頃				
	大腸がん	年頃				
女性：乳がん	マンモグラフィー	年頃				
	乳腺超音波	年頃				
	子宮がん	年頃				
	子宮がん	年頃				
	子宮がん	年頃				
男性：前立腺がん	前立腺PSA	年頃				
	前立腺PSA	年頃				
	前立腺PSA	年頃				
	前立腺PSA	年頃				
	前立腺PSA	年頃				
その他	検査名を明記	年頃				
	検査名を明記	年頃				
	検査名を明記	年頃				
	検査名を明記	年頃				
	検査名を明記	年頃				
感染予防		直近施行時期	年	年	年	年
インフルエンザワクチン(毎年秋)						
肺炎球菌ワクチン(5-8年効果持続)						

想定以上に高率な新規発癌を受けて追加したページ

IPAG問診票、もう1度みんなで試してみませんか？

改訂IPAG問診票を患者さんや介護利用者さんの目の届く所に置いて下さい

IPAG問診票の補充は電話1本で行い、8:30AMの専用診察枠を作って来年3月までお待ちしています

期待していたIPAG問診票単独での症例抽出は昨年は0例、今年度も前半は0例で後半11月に1例のみでした。当初、問診票の普及には時間が必要であると感じましたが、問診票そのものが面倒でスタッフからの積極的な働き掛けがないと難しいものではないかと考え、少し独自の改定を試みてみました。

実地医家の先生からのIPAG問診票スクリーニング後の紹介はレントゲン検診と同様に従来の8:30AM特急コースをご利用ください。介護系の方には主治医を介した紹介が大変面倒

であると思われましたので、IPAG問診票由来の紹介を「期間限定(2009年3月末日まで)」で介護事業者から直接お受けすることにします(ただし紹介時は主治医に一言了解を取っておいて下さい)。紹介時は必ず実施したIPAG問診票のコピーと現在服用中の全ての処方わかるものを添付してください。

今回IPAG問診票を集中して取り組んだ結果を分析して来年の日本呼吸器学会総会で発表し、ご助言を頂いた上で次回SYRC-Rにて「決着」をつけたいと考えています。

インフルエンザ特集



季節性のインフルエンザ対策を充実させましょう

昨年推奨した「家族全員」のワクチン接種は浸透してますか？インフルエンザは発症前日から他人への感染力を有しますので、罹患してから慌てて対策を講じても家族内のように濃厚な接触がある場合には効果が少ない場合があります。日頃からマスク・手洗いなどを心掛けて、感染者と接触しそうな人ごみ

や医療機関へ行くのは最低限に控えましょう。感染したら治療も重要ですが、無理して登校・出勤したり絶対にさせないことは社会に対する最低限のマナーです(学校保健法では、「解熱した後2日を経過すまで」をインフルエンザによる出席停止期間と定めています

が医師による裁量は認めています)。

新型インフルエンザ対策の備蓄を

一般の方は災害同様に生活必需品の備蓄が必要です。**家族全員の最低2週間分の備蓄**を推奨しています。ポイントは地震対策グッズに衛生用品を充実させることです。感染予防にはサージカルマスクは最も適切なマスクですが、針金を鼻と頬の形に合わせて曲げて、ブリーツを顎の下まで伸ばして装着できている人は多くありません。医療機関では更にN95マスクを正しく装着できること、そして何より**職員の為のマスクが備蓄されている**ことが重要です。SARS騒動の時は東京都の感染症診療中核病院でも入手困難になりました。メーカーもパンデミック時に備えて今から備蓄して欲しいと本音を言ってます。インフルエンザは接触感染も重要な要素で、ドアノブや手すりなどを介しての伝播予防に速乾性アルコール消毒剤は便利なアイテムです。介護施設では医薬部外品で十分ですが、消防法により在庫や備蓄に制限がありますのでマスクより早く入手困難になる可能性があります。



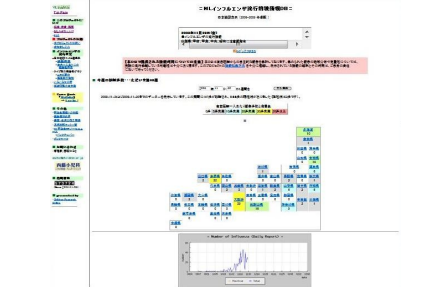
左：草加市立病院で採用しているグルコン酸クロルヘキシジン0.2w/v%を含有する無色のアルコールジェル(医薬品)
右：最近市販されているアルコールジェル(グルコン酸クロルヘキシジンは含まず：医薬部外品)

今年もインフルエンザ流行状況をネットで公開

今シーズンも地域有志医療機関と協力してインフルエンザ流行状況を把握して全国インフルエンザデータベース(MLインフルエンザ流行前線情報)に反映させます。

草加市立病院では15歳以上の急性気道感染症患者を対象とした症候群サーベイランスを実施してきました。2007年冬にはジャカルタからの輸入インフルエンザ(幸い鳥インフルエンザではなくAソ連型)を早期に検出した

実績もありますが、今季から年齢を問わず草加市立病院救急外来受診者に、対象は消化器感染症にも拡大した通年性症候群サーベイランスを行います。ノロウイルスや病原性大腸菌の地域内流行や新型インフルエンザのアウトブレイク検知が期待できるシステムが地域で出来上がることになります。毎週集計したデータを草加市立病院のホームページ内に反映していく方向で調整中です。



<http://ml-flu.children.jp/>
MLインフルエンザ流行前線情報DB